

No. 8 : 香港最大のグルメイベント ～本県の酒 PR に手応え～（令和 5 年 12 月 12 日）

10 月 26 日～29 日の 4 日間、香港島セントラルのハーバーフロントで、香港最大のグルメイベント「香港ワイン&ダイニング・フェスティバル」が 5 年ぶりに開催され、約 14 万人が来場した。36 の国や地域から約 300 ものワインや食事のブースが並ぶ中、日本清酒文化推進協会の主催で設置された「日本館」で本県ブースを出展し、本県の酒のプロモーションや販売を行った。



会場内は「トークン」と呼ばれる事前購入制のチケットを好きな飲み物や食事と引き換えることができるシステムになっており、日本館では 1 トークンでおちょこ 1 杯程度の酒を提供していた。本県ブースだけでも 30 種類程度の酒をそろえ、来場者がたくさんの酒を好きなだけ飲んで楽しんでいる様子が見えがえた。

ブース出展に当たっては県内酒蔵の希望を募り、虎屋本店（宇都宮市）、島崎酒造（那須烏山市）、渡辺佐平商店（日光市）、西堀酒造（小山市）の 4 蔵の商品を出品した。虎屋本店、島崎酒造、渡辺佐平商店の方々にはイベント期間中に香港までお越しいただき、現地プロモーションまで行っていただいた。

現地で PR した酒蔵の方々からは、「たくさんの方から香港の日本酒コンクールでの Sake of the Year（サケ・オブ・ザ・イヤー）受賞についてお祝いのコメントをいただいた。今後ももっと満足いただけるよう進化した日本酒を提供できるようまい進したい」「コロナが落ち着き久しぶりに現地取引先とリアルでの商談の時間がとれた。現地の飲み手であるお客様の生の声もたくさんお聞きできたので、今後の展開に役立てていきたい」「現地に行くことで、日本製品に対する期待の高さやニーズなどを肌で感じる事ができた。香港への輸出を目指しているが、現地業者とリアルで商談ができ、いい足がかりが出来たので、今後に繋げていきたい」といったコメントをいただいております、この先の展開に期待したいところだ。

会場では、出品した 4 蔵以外の本県の酒を具体的な銘柄まで指定して飲みたいと言われることもあり、本県の酒が確実に香港に浸透していると感じた。引き続き本県の酒の PR に取り組むとともに、こうした強みを生かしながら、本県そのもののプレゼンスの向上にもつなげていきたい。

（県香港事務所長 卯木啓之）